

【比立内獅子踊り（演目は「駒踊り」）】▶

非常に動きの激しい比立内獅子踊り保存会の「駒踊り」。明治時代初期に伝習されたと言われ、現在は比立内青年会が中心となって保存・伝承に努めています



◀【荒瀬獅子踊り】

現在、獅子踊りのほか、駒踊り、奴踊り、棒使いなどが伝承されている荒瀬獅子踊り保存会の「獅子踊り」。雌獅子を取り合う2頭の雄獅子を表現しています



◀【坊沢獅子踊り】

坊沢の獅子踊りは、今から約三百年前の藩政時代、「厄除け獅子」を主体に、大名行列の様子を模した奴踊りを演じたことが起源とされています



【猿倉人形芝居】

猿倉人形芝居は、明治・大正期を通じて関東から東北、北海道を巡演し、全盛を誇りました。その源流は文楽人形と同系統といわれますが、都会で発展した文楽とは異なり、民衆の間で生活娯楽として親しまれた素朴な人形芝居です。

この人形芝居の創始者は、旧由利郡島海町百宅の吉田若丸（本名・池田与八）とされ、その孫弟子となる三座「木内勇吉一座」（旧本荘市）「吉田千代勝一座」（旧合川町）「鈴木栄太郎一座」（旧羽後町）が、昭和49年に秋田県無形民俗文化財に指定されています。合川の吉田千代勝（本名・杉刈喜代三）故人一座は現在、「猿倉人形芝居一座」として継承されています。



（前頁から続く）

オーブニングで登場したのは、森吉地区・五味掘集落に伝わる「餅搗踊り」。大正末期から昭和初期にかけて起こった「阿仁前田小作争議」で皆さんの心を慰めるために、下北半島・東通村の「田植え餅搗踊り」を原型として始まった、といわれる踊りです。「♪もちつきまいは めでたいな、郷土で名高い森吉山：…」と、調子の良い囃子に合わせ白と合

この後、国替えのため常陸の国から秋田へ赴いた佐竹侯を慰めるための道中芸として始まったといわれる勇壮活発な「駒踊り」や、親子・雌雄の獅子の愛情を表現するという「獅

子踊り」、また県の無形民俗文化財にも指定されている「猿倉人形芝居」などが演じられました。3時間半にわたる長時間の公演にもかかわらず、観衆は席を立つこともなく、懐かしく郷土色ゆたかな各地区の芸能の数々をたっぷり堪能していました。

【五味掘餅搗踊り】

集落の秋祭り（九月十五日）に神社の境内で奉納舞いとして披露される「五味掘餅搗踊り」。調子が良く、リズムカルなお囃子が楽しい



【前山郷土芸能（奴踊り）】

今から約二百五十年ほど前、先祖の供養と合わせ、豊年満作と厄除けを祈願するため雷皇（らいこう）神社に奉納したのが起源とされる前山奴踊り

